

6 抗生物質対策

抗生物質が混入した生乳は出荷することができません。誤って混入した場合は全量廃棄になるので、抗生物質混入事故は経済的、精神的に大きな損害を農場に及ぼします。事故を未然に防ぐためには2重、3重の防止策を実践することが大切です。また、搾乳作業者全員の協力、連携が不可欠になります。混入事故の多くは次の2点が原因となっています。

- マーキングの見落とし
- 連絡の不徹底

消費者に対する農畜産物の安全安心と信頼を得るためにも、残留事故を防ぎましょう。

(1) マーキング（治療牛をわかるようにする）

搾乳作業をする人が治療牛や乾乳牛を見たときに、すぐに、そしてどこから見ても判るようにすることが必要です。

- ・治療などで抗生物質を使用した場合は、その場ですぐにカラースプレーなどでマーキングをしましょう。また、一目で分かる位置にマーキングすることが大切です。
- ・マーキングは擦れて薄くなることもあるので毎回確認し、見づらくなったら再度スプレーします。
- ・マーキングが薄くなったり、牛体が汚れて見えづらくなったときのことを考え、牛の足首にマーキングバンドを装着したり、管理ボードを併せて使用することも効果的です。



マーキングは二つ以上の方法で行いましょう。もしも一つが分からなくなっても、すぐにどの牛かを確認することが出来ます。

写真19 カラースプレーでのマーキング 写真20 マーキングバンドでのマーキング

(2) 治療牛の記録と搾乳作業者間の連絡徹底

- ・どの牛を治療しているか判るように治療の記録を付けておきましょう。
- ・搾乳前には治療記録をチェックして治療牛を確認します。
- ・搾乳作業者での打ち合わせや、お互いにひと声掛けあうことも大切です。

（例 『○番、薬入ってるよ』）

<残留確認検査を受ける>

乳汁中の抗生物質の残留確認をするため、休薬期間が終了したら必ず検査を受けます。



写真21 管理ボードでの治療牛のチェック